

『ペットボトル』 作：ポチ子

椅子をひくのに邪魔だから、

床のペットボトルを蹴っ飛ばした。

1本や2本だったら、

捨てればいい話だけど、

何十本も溜まっていると、

余計にやる気が無くなったりして。

それでも、

捨てればいいだけの話だよ。

友達と言う。

そういうもんじゃないよ。

私が言ったって、

誰も共感なんてしてくれない。

飲んで空になったら、

洗ってゴミ箱へ。

普通の話で、

とても簡単。

でも私には難しい。

友達は、

私の意味が分からないって。